

木造住宅の耐震改修工法

構造用合板と発泡プラスチック断熱材を用いた耐震改修工法 (SIR工法)

評価番号

W-036

評価年付日

R04.3.3

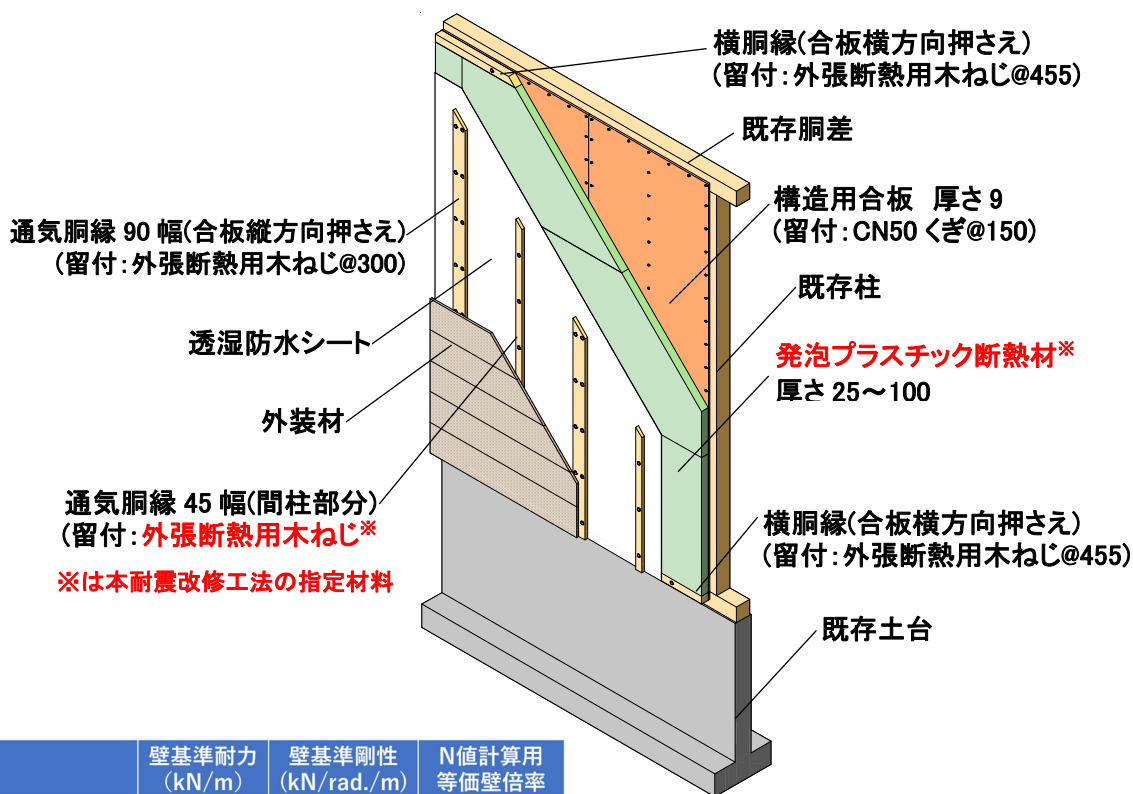
(一社)発泡プラスチック建築技術協会

(一財)日本建築防災協会(DPA-住技-74)

SIR工法は特殊な工具や接合部材等を用いることなく一般的に省エネ住宅に施工されている発泡プラスチック外張断熱工法の胴縁等の施工をしっかりと行うことで高い耐震改修効果と同時に断熱改修効果も得られる工法です。

◆補強方法の概要

- ・構造用合板の外側に発泡プラスチック断熱材を外張施工することによって合板の面外変形を防止
- ・通気胴縁を介して外張断熱用木ネジで留め付けることにより、柱・間柱に強く固定
- ・柱部分は広幅の通気胴縁を2列ネジ止め、横架材部は横桟木により合板を固定



	壁基準耐力 (kN/m)	壁基準剛性 (kN/rad./m)	N値計算用 等価壁倍率
SIR工法	8.0	1,670	6.7
構造用合板直張	5.2	860	-

◆工法の特徴

- ・特殊な金物、工具あるいは施工技術を必要としない
- ・耐震改修と同時に省エネ性、防水性、耐久性の向上が可能
- ・窯業系サイディング、木外装使用した場合の防火認定取得済み

[問い合わせ先]

一般社団法人 発泡プラスチック建築技術協会 <https://b-cep.org/>